

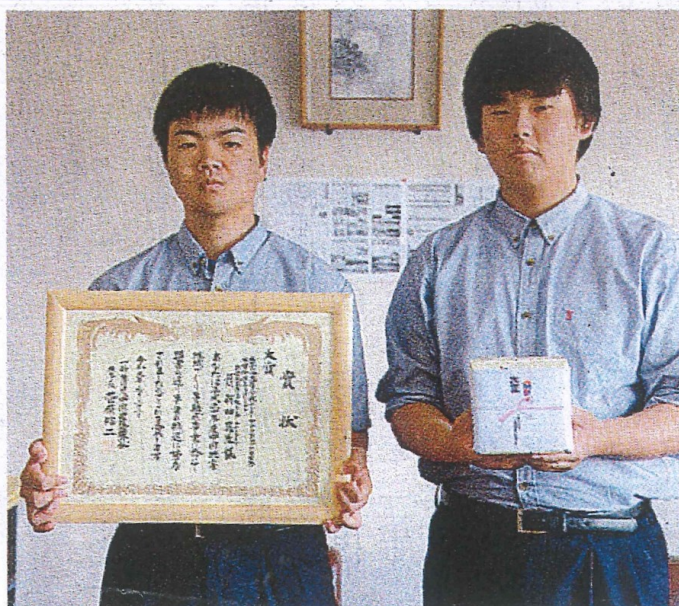
「中国地方地域づくり助成事業報告会」で大賞を受賞！

昨年の地球環境大賞・奨励賞受賞に続く出雲西高校の快挙

出雲西高校（出雲市下志町のボランティアサークル・インターアクトクラブ）が手掛けた水環境改善プロジェクトが、6月にあった中国建設弘済会主催の中

出雲西高サークル 水環境改善が大賞

中国地方地域づくり助成事業



賞状を持つ橋本開部長（左）と岩浅智大副部長

国地方地域づくり助成事業報告会で、エントリーした38団体中、最高賞の大賞を受賞した。

インターアクトクラブは1966年に設立し、環境保全をはじめとした奉仕活動が続けている。

2011年に自然環境を調べる目的で来日したドイツの大学生らが「出雲の自然環境と歴史・伝統は、世界的にも数少ない素晴らしい地域だ」とほめたことをきっかけに環境保全活動を進め、こうした経緯が評価された。

報告会では、山陰両県の海岸に堆積するマイクロプラスチック調査やEM菌（有用微生物群）を利用した川や池の水質改善、宍道湖でヨシを栽培する浄化活動などの取り組みを紹介した。

昨年の U-net 通信 100 号（7 月号）で、出雲西高校の第 27 回地球環境大賞・奨励賞受賞を記事掲載しました。同校が今年に「中国地方地域づくり助成事業報告会」で大賞を受賞しました。

5 年前から出雲西高校の環境福祉コースで講師を務める島根県理事の錦織文子さんの指導の下、講師と生徒の二人三脚で得た最高賞の受賞です。高校生による EM を利用した河川や池の水質改善活動がここでもまた評価され、島根県における EM の未来像が更に鮮明になりました。（新聞記事は 7 月 10 日付・山陰中央新報）

表彰状を受け取った橋本開部長（18）は「活動が評価され達成感がある」と話し、岩浅智大副部長（17）も「先輩の活動を引き継ぎ、活動してきたから受賞できた。後輩たちにも続けてほしい」と話した。

（井上雅子）